

渋谷駅に降りて外に出ると、再開発の工事が真っ最中という雰囲気圧迫されます。駅周辺地区では組合施行の再開発事業も同時進行中で、駅に降り立つだけで再開発ラッシュの様子を実感できます。駅と駅ビルの建て替えにとどまらず、駅施設の移転・地下化や渋谷川の改修なども行う大改造です。

地下駅となった東急東横線と田園都市線・地下鉄半蔵門線、JR山手線、地上・橋上の地下鉄銀座線、京王井の頭線の各渋谷駅。そして東口、西口にあるバスターミナル。乗り換え通路も難しい迷路のような駅です。

再開発の主役は、駅舎と駅ビルの一体開発を行う東急電鉄、JR東日本、東京地下鉄の鉄道3社。最大の地権者である東急電鉄は、渋谷駅街区に地上47階、地下7階、高さ230mの東棟（延床面積約5万4,750坪、2020年度開業予定）を、最上層部に日本最大級の屋外展望施設をつくり、駅南街区にも35階建ビル（同約35,180坪、2018年秋開業予定）を建設します。

渋谷駅周辺では、東急不動産が東急プラザ渋谷のあった道玄坂1丁目地区（18階建、延床面積約17,800坪、2019年度開業予定）と渋谷駅桜丘口地区（36階建など延床面積約72,600坪、2020年頃開業予定）の再開発事業に地権者・参加組合員として参画しています。

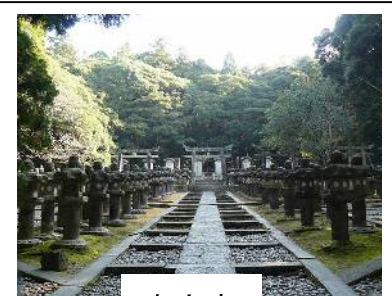
メトロ銀座線ホームは現在の位置よりヒカリ工側へ130m移し、東横線・副都心線（地下2階）の真上3階レベルとなり、両駅は縦に接続します。また、埼京線は旧東横線渋谷駅地上ターミナルの一部を活用する形で、北側約350m（地上3階）へ移設し、山手線ホームと並列するようになります。



☆山・旅・諸々 ☆
年末を利用して萩・岩国・広島・呉・尾道を旅してきた。

萩へは何度か訪れたことがあるが、道路等インフラが整備され、昔のイメージがだいぶ変わっていた。特にNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の放送後、変化が著しいようだ。吉田松陰ゆかりの松下村塾を始め、高杉晋作や木戸孝允の旧宅のある城下町は訪問客が多いが、萩藩・歴代藩主の廟所がある東光寺は静かな中にも荘厳な雰囲気があり、石灯笼約500基が整然と立ち並ぶ様は周囲の杉・檜の大樹とともに森厳な霊域であることを実感した。

広島では原爆死没者慰霊碑前で黙祷。呉では1/10の戦艦大和を見学した。



東光寺